

事務作業の大幅軽減で 介護士本来の仕事に専念

株式会社航和 岩手県雫石町



クラウド化で作業効率が上がった分、介護士と利用者が接する時間を大切に

岩手県岩手郡雫石町で介護施設を運営する株式会社航和では、クラウド化で職員の事務作業を大幅に削減。離職率を28%から8%にまで改善させた。

介護が苦ではなく 事務作業が苦痛

岩手県雫石町の株式会社航和が運営する介護施設は、日本でもっともクラウド化が進んだ介護現場といえるだろう。

航和の前身は、1972年から地域住民に親しまれてきた整骨院。2代目で、現代表取締役の佐々木航さんが、患者からの要望で、株式会社航和を設立し、介護業界へ参入した。

未経験の介護業界でもっとも悩まされたのは、人手不足。離職率が28%と高く、せっかく採用できても定着しなかった。

この課題解決のため、佐々木さん自ら、職員一人ひとりからヒアリングを行った。すると、意外な答えが返ってきたという。「介護は苦ではありません。事務作業に時間を割かれるのが苦痛なんです」と。

「この意見を聞いたときにハッ」としました。事務作業に時間を

割かれて、本来の仕事ができていないのだと気付かされました。これをきっかけに、紙が中心だったアナログの情報共有から、パソコンやタブレットを用いたクラウド化で、作業効率の見直しを進めていく。

IT活用で情報共有 のための入力作業を効率化

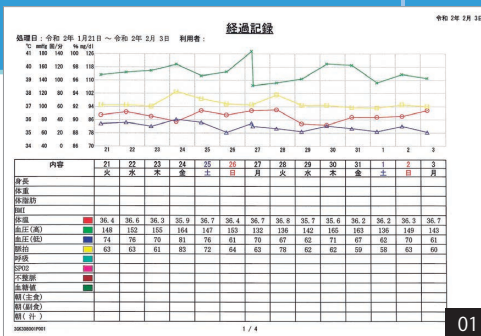
今までの情報共有方法はどうだ。体温や血圧などを測り、一



タブレット端末やBluetooth機器を現場で使えるようにしたことで、事務作業を溜め込まずその場で処理



02



01

01／個人の経過記録。体調管理も把握しやすくなった 02／利用者一人ひとりに合わせた介護方法は、写真を使って情報共有。タブレットだと撮影も加工も現場で手軽だ

度走り書きでメモ。利用者の介護業務が終わった後、デスクに座り、手書きで紙に残したり、パソコンでシステムに入力していた。情報共有には、該当データを印刷して各担当者へ配布するなど、入力や出力の手間がかかっていた。

効率化の足がかりに、まずはメモ共有アプリケーション「Evernote」を使用し、利用者情報をクラウド共有することにした。写真やイラストを挿入できるのでわかりやすく、現場にいてもタブレットで素早く情報にアクセスできるようになった。共有化のメリットが見えたところで、介護向けシステム「ほのぼのNEXT」を導入。デイサービスや訪問介護など複数の施設を併用する利用者の情報連携をスムーズに行うことが可能になった。もちろんタブレットで入力・閲覧ができる。

さらに、体温や血圧などの測定は、Bluetoothス接続ができる機器に変更し、今では入力さえ必要ない。

こうして1日当たり40分、1カ月で1200時間も作業時間

を削減したことで、仕事内容が改善し、職員の満足度が上がった。仕事時間の見通しが立てやすくなったため、残業は月平均10時間に抑えられている。このように現場での働き方に大きな影響を与え、結果的に離職率の大幅減少につながった。

1年後に実現する介護スマートルーム

介護現場の働き方改革を進める佐々木さんは、すでに新しい介護の在り方を目指し、進めている取り組みがある。それが「介護スマートルーム構想」だ。

——ある施設での朝。利用者、山田さんは、目を覚ますとスマートスピーカーに「おはよう」と話しかける。IoTの自動操作で、カーテンが開き、ベッドの背が上がる。そしてテレビ電話がつながり液晶モニター越しに愛する家族と会話する。一方、起床の通知を受けた介護士は、利用者のもとへ朝の体調確

認に向かう。手にはタブレット、片耳にはワイヤレスイヤホン。「山田さんの体調は？」と声で問いかければ、情報が読み上げられるため、移動中に確認作業が完了する——

このように単純作業はシステムに任せて、人と接する時間を大切にできる。そんな、未来型介護を1年後には実現させる予定だという。

超高齢社会を迎え、介護の变革が急がれるなか、このような現場主導の取り組みこそが、大きな影響をもたらすだろう。



整骨師の資格をもち、前職では東京の整形外科で働いていた佐々木さん。「Evernoteから始めたのも、個人的に便利で使っていたものを、応用できるなと思ったから」



下段、右から2番目が佐々木さん

2019年全国中小企業クラウド実践大賞 全国商工会連合会会長賞受賞

株式会社航和は、2020年2月12日、「全国中小企業クラウド実践大賞全国大会」において、介護現場におけるクラウドシステムの導入で離職率の改善につなげた事例を発表。全国商工会連合会会長賞に選ばれた。

介護業界全体で
職員の働き方改革に
つながればうれしい

代表取締役の佐々木航さんに
受賞に関してインタビューした。
——受賞おめでとうございます
ありがとうございます。素晴らしい賞をいただいたことを大変うれしく思います。

とくに、私のことでなく、働きやすい環境に改善していくこととする、職員たちの日頃の取り組みを評価してもらえたことが、とてもうれしかったです。介護は現場で働く職員と、その場を選んでもくれる利用者の双方の幸せがあってこそですから。私たちの介護現場のリアルを知ってもらおうきっかけにもなったと思



全国中小企業
クラウド実践大賞とは

中小企業等がクラウドサービス活用を実践し収益力向上・経営効率化した取り組みを発表。地方大会を経て、全国大会に出場した10社のうち優れた実践事例が表彰された。

います。

——同大会にエントリーした動機を教えてください

親しくしている岩手県立大学の教授から勧められたのがきっかけです。介護業界ではクラウド化がまだまだ進んでいない現状で、私たちの取り組みは先進的だと。でも、実はこの時点で、エントリー締め切りまで1週間しかなくて！あまりに準備期間が短かったのですが、私たちの取り組みが紹介されることで、介護のクラウド化が社会に注目されれば、介護業界全体で職員の働き方改革につながると考え、エントリーを決めました。もう大急ぎで準備しましたよ。

——受賞をうけて変化はありましたか？

新聞や雑誌に掲載され、メディア露出の機会がありました。また、イベントの講演オファーや、総務省や内閣府のICT関連の担当者が興味をもってくれるなど、さまざまなところから声がかかりました。IT×介護分野で、社会から注目される企業になったのだと、あらためて身が引き締まる思いです。